令和６年度第１回滋賀県職業能力開発審議会　概要

１　日時

令和６年７月 29 日（火）10 時 30 分から 12 時まで

２　場所

滋賀県大津合同庁舎　6-A 会議室

３　出席委員

佐藤、田邉、丸本、山本、中野、和田孝、山田、和田光平、齋藤、伊藤、菱田、西林、沼井の各委員（敬称略、出席 13 名）

４　事務局

労働雇用政策課長　他３名

５　オブザーバー

県立高等技術専門校校長

（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構滋賀支部

滋賀職業能力開発促進センター所長

６　議事概要

高等技術専門校の再編にかかる報告について

資料１～７および参考資料１～３により説明

【主な意見等】

内容　高等技術専門校の再編にかかる報告について

委員

再編はこれからが大変で、企業との連携やニーズの調査など、誰がどのように実行して、ゴールの設定や進捗管理をどうするのかが難しい。有意義な取組となるよう、体制作りなどが大切である。

委員

これから再編する中で、求職者や企業の情報が集まるハローワークと連携し、そこから情報を正確に得られると、効率的・効果的に取り組むことができる。

委員

働きたいが働く先がわからない人がいる一方、事業者は人材が欲しいが募集先がわからないアンマッチングの状態になっており、高等技術専門校から求職者の情報が来れば、マッチングするケースもあると思う。

ハローワークからもそうした情報は来ないので、関係機関が集まり、全体としてどうしていくのか相談することが必要と考える。

最近は、他府県の職業能力開発校から求職者の情報が来るようになった。

事務局

高等技術専門校の訓練生の求職者情報については、３か月に一度、過去に同校の修了生を雇用していただいた県内企業に対して提供しているところであるが、人手不足の状況もあるので、これまで雇用していただいた企業だけでなく、インターンシップの受入れなども含め、求職者情報を求めておられる県内企業にしっかり伝わるようにしていきたい。

また、県外の企業に就職するケースもあるので、県内企業はもとより、県外の企業にも求職者情報の提供を検討する。

委員

高等技術専門校がありながら、そこに関心をもってもらう人を探すのが難しい状況であり、若い人にとって、汗をかいて働くことが職業を選ぶ際の選択肢に加わっていないのではないかと思う。

委員

訓練定員を一定縮小する中で、定員を充足させることが大切であり、新しい対策などが必要と考える。

また、再編に伴い、訓練科の統合等があるが、移行期間はどのように進めていくのか。

事務局

令和８年度には再編を完了することとなるが、令和７年度においては、再編対象となる訓練科の訓練を順次終了していきながら、並行して新しい訓練科の準備を進めていく。デジタルリテラシーに関するカリキュラムの導入など可能なものは、令和７年度の訓練から対応し、必要な機器の整備は令和７年度に行いたい。

委員

少ない人員体制の中で、通常の業務に加えて新しいカリキュラムを組むのは大変かと思うので、人員体制も含めてしっかりと計画を立てて進めてもらいたい。

委員

再編後の数値目標がしっかりと達成できるように取り組んでもらいたい。

委員

障害者雇用については、定着率など様々な課題がある。例えば、クリーンルームの清掃をする部署が入った建屋を作って、将来的に総合実務科を修了した方が、そうした施設で働いていけるように県と連携していけるといい取り組みになるのではないかと考えている。

委員

若者の中で、高等技術専門校の認知度が低いと思うので、若者の入校者を増やすために、高等学校に出向いて説明会を行うなど、積極的な行動をとってもらいたい。

事務局

新卒者を対象とした訓練科があるので、夏休み期間に集中的に県内の高等学校を回っているが、なかなか認知度が上がらないのが現状である。

企業の求人活動が活発化している中で、高等技術専門校にも興味を持っていただけるよう、引き続き取り組みを進めていきたい。

委員

少子化が進み、どの業界でも人材不足が深刻化している中で、高等技術専門校で訓練を受講すると、こうしたメリットがあるという点をアピールできれば良いと思う。

委員

そもそも、ものづくりが好きな若者は、工業高校や理系の大学を卒業して就職するケースが多い中、新卒者に対して、必要な技能を身に付けられるという高等技術専門校のメリットを打ち出すことが大切である。また、転職市場が活況である中、大学を卒業して就職したけれど、やっぱりものづくりがしたいという方を捉えて、ハローワークから高等技術専門校にしっかりつなげられると入校率も上がるのではないかと考える。

委員

高等技術専門校の総合実務科を修了し就職された方に対して、半年や１年後に、本人や事業者との面談の場を設け、困りごとや訓練に対する要望を拾えると、より充実した訓練になるとともに、採用した企業の安心感も高まり、採用人数も増えるものと考える。

高等技術専門校の魅力発信については、インスタグラム等を通じて訓練の状況や受講者の声を紹介するなど、パンフレット以外で高等技術専門校を知ることができると、安心して入校ができるので、動画の作成などに力を入れてもらいたい。

委員

若者だけでなく、やる気のある中高年齢者も含めて活気のある高等技術専門校にしていってもらいたい。

委員

引き続きハローワークや労働局と連携を密にして、希望者をスムーズに高等技術専門校につなげてほしい。

高校卒業者の進路は、進学が７割程度で就職は３割ほどしかない。就職を希望する高卒者が少ない中で、高等技術専門校の魅力発信をより強化していかなければならない。

委員

他の都道府県と連携、情報共有をして、成功事例があれば取り入れることが大切である。

５年計画で目標を達成するというのでは少し遅く、担当者が変わらない２、３年で、スピーディに目標を達成していく方が良いと考える。

委員

目標に対する進捗状況のチェックも当審議会の大切な役割であり、職員においては、しっかり引き継ぎを行う必要がある。再編をより有効なものとするためにも、委員と職員のコミュニケーションが大切である。

委員

高等学校を訪問するうえでは、どこから何人入校してもらうかなどの戦略を立てる必要がある。また、一回訪問したくらいでは、学校と関係性を作ることはできないので、何度も訪問して関係性を築いてもらいたい。

どんな素敵なコンテンツでも作っただけでは人の目に触れない。検索方法やＱＲコードなどのＰＲも工夫してもらいたい。

以上